

有限会社久喜葬祭社（埼玉県／久喜市）

代表取締役 松永元彦氏

緊急時にはトップの迅速な決断力が求められる ～緊急事態宣言前3月から解除後7月までの現状と対策～

有限会社久喜葬祭社の代表取締役松永元彦氏は感染遺体の受け入れを決断し、ガイドラインを作成。

6月からはイベントを再開し集客に成功。常に社員やお客様が安心できるやり方を模索してきた。

緊急事態宣言発令から7月までの葬儀の様子やその後のイベント開催について話を伺った。

緊急事態宣言前3月からの変化と対応

3月から5月にかけて20人から30人だった家族葬はさらに小規模になり、二日葬から一日葬に変わった。搬送から葬儀まで新しい仕様を取り入れ、万全な対策を整え、新型コロナウイルスの感染遺体の受け入れを決めた。

「感染ご遺体を受け入れたくない葬儀社は多かったと思いますが、弊社は受け入れを決めました。社内では心配の声もありましたが、仮に自分の大切な方が亡くなった時も断るのか。気持ちで受け入れるかどうかは別として、私たちがお客様を選ぶのはおかしいのではないかとミーティングで話しました。私たち葬儀社は今回のような事態や災害など、非常事態や有事が起きた際にはご遺体を搬送することが仕事になると考えています。ニューヨークのような状態になった時、ご遺体を火葬することが私たちの仕事になります。そこで感染ご遺体を断っていたらビジネスができなくなります。選んではいけないと思いました。状況を的確に判断し、万全な対策を取ることが大事。実際にはまだ陽性のご遺体を担当するには至りませんでした。弊社では疑いのある方を3名担当しました。救急で運ばれた方のご遺体や既に亡くなられている方はテレビの報道で数字が上がっている方々ではありません。また、肺炎患者のご遺体を扱う際は特に怖さを感じました。完全に陽性とわかっているならば堂々と防護服を着て対策を取れますが、実際には陽性か陰性かわからない状態の方が多く存在します。これからはたとえ陰性であっても陽性の可能性を考えて対応をしていく必要があると捉えています」

ガイドラインを作成し、医療機関やお客様に共有

感染防止対策としてガイドラインを作成。社内、近隣病院、お客様向けにその都度更新し、取り組みを書面に記し、配布した。病院向けの資料には以下の内容を記載。（参考画像〔1〕より一部抜粋）

- ①死因が肺炎及びコロナ感染の疑いがある場合には、搬送前に必ず告知をお願いします。
- ②コロナ感染の疑いがある死因のご遺体は、PCR検査を必ず行って頂き、結果が出てからのご遺体の搬送となります。
- ③コロナ陽性の方及び②の結果が陽性になったご遺体は、厚生労働省の指導にある病院側で非透過性の納体袋に納め、アルコール消毒液で納体袋の消毒をお願いします。又、病院に棺を持ち込みし、防護服着用で納棺し、ご遺体搬送の対応をさせていただきます。（ご遺族の理解及び火葬場の予約が取れてから、感染拡大防止の為に、病院から火葬場まで直接搬送しますので、ご遺体搬送が数時間・数日後になる事をご理解をお願いします）
- ④肺炎又は②の結果が陰性の場合、ご遺体を納体袋にスタッフが納めてから、搬送する場合もございますのでご理解をお願いします。
- ⑤コロナ陽性のご遺体は、③で説明した流れでコロナ専属スタッフが対応する為、急なご遺体搬送が出来ない可能性がありますのでご了承ご理解をお願いします。

「都内では陽性か陰性がはっきりしているご遺体がほとんどだと思いますが、この地域はわからないご

〔1〕 病院向けのガイドライン

「新型コロナウイルス感染のご遺体搬送の対応について」

令和2年4月27日

近隣病院 院長及び
医師・看護師各位

有限会社 久喜葬祭社
代表取締役 松永元彦

新型コロナウイルス感染のご遺体搬送の対応について

前略 現在新型コロナウイルス(以下コロナ)が感染拡大している中、医療従事者におかれましては、大変なご苦労があるとお察し申し上げますと共に心より感謝申し上げます。さて、ご遺体と接する葬儀社としては、患者を診られている医療従事者と同じく不安を感じているところであります。グラーテスの久喜葬祭社としては、社員の安全安心を確保する為に、以下の事を病院側をお願いしておりますので、ご理解ご協力をお願い致します。

- ① 死因が肺炎及びコロナ感染の疑いがある場合には、搬送前に必ず告知をお願いします。
(死亡診断書は、ご遺体と接触する前に発行されてお預かりすることが望ましい)
- ② コロナ感染の疑いがある死因のご遺体は、PCR検査を必ず行って頂き、結果が出てからのご遺体の搬送となります。
- ③ コロナ陽性の方及び②の結果が陽性になったご遺体は、厚生労働省の指針にある病院間で非透過性の納体袋に納め、アルコール消毒液で納体袋の消毒をお願いします。又、病院に箱を持ち込みし、防護服着用で納付し、ご遺体搬送の対応をさせていただきます。ご遺体の理解及び火葬場の予約が取れてから、感染拡大防止の為に、病院から火葬場まで直接搬送しますので、ご遺体搬送が数時間・数日後になる事もご理解をお願いします)
- ④ 肺炎又は②の結果が陰性の場合は、ご遺体を納体袋にスタッフが納めてから、搬送する場合もございますのでご理解をお願いします。
- ⑤ コロナ陽性のご遺体は、②で説明した流れでコロナ専属スタッフが対応する為、急なご遺体搬送が出来ない可能性がありますのでご了承をお願いします。

以上

〔3〕 社員向けのガイドライン

「新型コロナウイルスご遺体取り扱い基準」

新型コロナウイルスご遺体取り扱い基準 R.2.4.27 現在

肺炎及びコロナの疑い後PCR検査で陰性のご遺体

- ① ゴム手袋3枚、白衣着用、フェイスマスク
- ② 納棺は当社で行う(納院で納体袋にスタッフが納めるが顔は見えるようにする)任意
- ③ 通常の式を行う(お別れは、スタッフがゴム手袋着用)
- ④ 消毒は必要に応じ行う
- ⑤ 料金は、警察の処置料が妥当(スタッフの手当も同等)

コロナ陽性のご遺体

- ① ゴム手袋4枚(1枚は大)、防護服着用
- ② 納体袋に着脱後及び医師に納めてもらう
- ③ 納棺はスタッフが病院で行い目録をする
- ④ 原則は病院から火葬場へ直葬(お別れは不可)
(家族と協議が必要、式の希望があった場合はグラーテス加須(安置も同様)のみ可)
- ⑤ 消毒は、寝台車などすべてに念入りに行う
- ⑥ 料金は、プラン代+15万円(増額の可能性有)が妥当(スタッフの危険手当は今後検討)

新型コロナウイルス特種命令基準

3日間の自宅待機命令

- ① 37.5度以上の発熱があった場合
- ② 普段からマスクを着用・手洗い消毒していないスタッフ
- ③ ご遺体を素手で接触したスタッフ(特に肺炎及びコロナ陽性のご遺体)
- ④ 体調が著しく悪い時期が続いているスタッフ

2週間の自宅待機命令

- ① 3日間の自宅待機中に37.5度以上の発熱又は体調が崩れた場合
- ② コロナ陽性者(濃厚接触者)とマスク着用なし、素手で接触した場合
(PCR検査で陰性が出た時点で解除)
- ③ コロナ感染の症状があり、PCR検査を受けたスタッフ
(PCR検査で陰性が出た時点で解除)
- ④ 保健所の指示や命令があった場合

新型コロナウイルス3日間任意待機の条件基準

- ① コロナ陽性のご遺体を防護服着用し処置したスタッフ
- ② 待機中は、ホームワークとし出勤扱いとする(ズーム等が出来るよう事前に習得する)
- ③ ホームワークが難しい場合は、会社の負担でホテル待機とする
- ④ 待機中は、検温を必ず行う(毎朝の3回と出勤する朝に行う)
- ⑤ 危険手当については、今後検討する

〔2〕 お客様向けのガイドライン

「新型コロナウイルス感染予防の取り組みについて」

4回更新。(上) 3/23 (下) 4/10 発信

新型コロナウイルス感染予防の取り組みについて

この度、グラーテスの久喜葬祭社では、新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、葬儀に感染予防を講じることになりました。葬儀には不特定多数の方が多く集まります。新型コロナウイルスの感染から守る為に、感染予防対策にご理解とご協力を何卒宜しくお願い致します。

葬儀スタッフは原則としてマスクを着用させていただきます
葬儀スタッフ及び関係スタッフは、原則としてマスクを着用致しますので、ご理解をお願い致します。
葬儀会場において、ご遺族およびご参列者の方にもマスクの着用を推奨致します。

参列者の方は、手洗い消毒のご協力をお願い致します
葬儀会場の入り口に、手指消毒用の薬剤を設置しています。消毒液は、葬儀会場に入る時に消毒し葬儀会場から出る時に消毒の最低2回以上のご協力をお願い致します。

一般参列者への通夜の対応
ご遺族やご親族以外の一般参列者の方が、通夜に参列した場合には、ご挨拶が終わりまじら式場から退場をして頂くようご案内をさせていただきます。多くの方が、長時間式場内に滞在していると、感染リスクが高くなりますのでご理解をお願い致します。
ご遺族やご親族以外の一般参列者の方には、通夜ぶるまいのお清めの食事は、ご遠慮頂く事を推奨致します。一般参列者の方には、通夜ぶるまいの代わりとして、お清めセットをお持ち帰るような対応をお願いしております。

感染予防と厳粛な葬儀を行うバランス
葬儀とは、最愛の方後悔が残らないようでは、長時間密接するので、グラーテスのら、精一杯対応して

新型コロナウイルス感染予防の取り組みについて

この度、グラーテスの久喜葬祭社では、新型コロナウイルスの感染拡大の緊急事態宣言を受けて、新たに葬儀に感染予防の取り組みを講じることになりました。新型コロナウイルスの感染から守る為に、感染予防対策にご理解とご協力を何卒宜しくお願い致します。

葬儀スタッフはマスクを着用、打ち合わせ時間の短縮
葬儀スタッフ及び関係スタッフは、原則としてマスクを着用致しますので、ご理解をお願い致します。
葬儀会場において、ご遺族およびご参列者の方にもマスクの着用を推奨致します。また、緊急事態宣言期間中には、葬儀スタッフにおいては、三密を避ける為に出来るだけ対面の打ち合わせではなく、電話やメールの打ち合わせを推奨させていただきます。

参列者の方は、手洗い消毒のご協力
葬儀会場の入り口に、手指消毒用の薬剤を設置しています。消毒液は、葬儀会場に入る時に消毒し葬儀会場から出る時に消毒の最低2回以上のご協力をお願い致します。

通夜の参列者の制限
ご遺族やご親族以外の一般参列者の方の参列は、ご辞退して頂くようお願い致します。一般参列者の方のご辞退が出来ない場合は、通夜開式時間の1時間後からのご案内にし、通夜ぶるまいの代わりとして、お清めセットをお持ち帰るような対応をお願いしております。また、ご遺族やご親族においては、通夜開式時間の2時間後には解散して頂く協力をお願いし、通夜ぶるまいの料理も持ち帰りを推奨しています。

告別式の対応
告別式の参列は、ご遺族やご親族そして特別な方のみでお願い致します。また、火葬場に行く人数も出来るだけ控えて頂き、精進落としのお清めは火葬中に行うことを推奨しています。

感染予防と厳粛な葬儀を行うバランス
葬儀とは、最愛の方との最後のお別れを行う大切なセレモニーです。最愛の方のお別れに、後悔が残らないような運営をしてみたいです。しかし、新型コロナウイルスの感染予防としては、長時間密接する空間に多くの方が滞在しますと、感染リスクが高くなってしまいますので、グラーテスの久喜葬祭社としては、感染予防と厳粛な葬儀を行うバランスを考えながら、精一杯対応してみたいと思っておりますので、ご理解ご協力をお願い致します。

令和2年4月10日発信

有限会社 久喜葬祭社
代表取締役 松永元彦
社員一同

遺体が溢れかえってしまいました。感染者を受け入れている指定病院は感染防止対策を徹底されているが、報道されていたように、実際には指定外の病院でクラスターが起こっていました。指定外の病院の十分な知識や準備がなされていない現状に危機感を覚えました。知識を共有し、こちらの対応を理解していただく必要があると考え、私たちはガイドライン(参考画像〔1〕)を作成し、近隣の病院に書類やFAXで配布しました。これは社員の安心にも繋がると思っています。お客様にも安心していただくために取り組みとして別の文書をお渡ししています。葬儀



3月7日（緊急事態宣言前）の人形供養祭の様子。
マスク着用のもと通常通り開催



6月20日 ポチたま霊苑慰霊祭の様子



4月4日
グラーテス加須オープン1周年記念イベントは縮小して開催



7月5日 グラーテストネ
前人形供養祭の様子 完全予
約制、参加条件で開催



6月14日 毎年評判のお盆学習会は完全予約制、
1家族1名の参加条件で開催

のやり方もその都度変更し、変更した段階も文面で表していきました」

葬儀のやり方は段階を踏んで変更。（第一弾）一般参列者の通夜振る舞いをカット。お清めセットをお持ち帰るような対応。（第二弾）緊急事態宣言が発令された4月10日以降は一般の会葬者を呼ばずに葬儀を行うように促す。仮に呼ぶ場合は焼香時間を1時間ずらして行う。親族も通夜後2時間以内に解散していただくように変更。通夜振る舞いの料理も持ち帰りを推奨。（第三弾）6月からは第一弾に戻した。（第四弾）通常通りの葬儀に戻した。（参考画像〔2〕より一部抜粋）

風評被害を避けるために 待機期間が必要

「陽性の方、または感染疑いのある方を担当するスタッフは必ず待機期間を設けるようにしました。防護服を着て、手袋をして、万全な対策をとっていながら本当に待機期間は必要なのかと悩みました。しかし風評被害が起こってしまうことを考えると、会社を守るため、お客様の安心を守るためには待機期間を設けることが重要だと考えました。ガイドラインにもこの事項を記載し、お客様にご理解いただけるようにしています」

トップの決断は迅速に

政府が埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、大阪府、兵庫県、及び福岡県の7都府県に対し緊急事態宣言を発令したのは4月7日。16日付に対象地域が全国に拡大。その後延長を伴い、5月25日に全国が解除された。

「政府の指示が出るまでには時間がかかっており、同じ経営者の皆さんも判断に悩まれたと思います。弊社は4月4日の以降、通常のイベントは休んでいましたが、私は政府の判断を待ってから今後の方向性を決めるのでは遅いと判断し、5月31日まではイベントを中止し、6月1日からイベントを開始することを決めました。緊急事態宣言は延長になりましたが、常に先取りで判断して動いていきました。会社はトップダウンよりもボトムアップが理想的と言いますが、このような状況ではトップダウンの迅速な決断力が求められます。来てもらうためではなく、まずはやってみよう考え、客寄せの催しはカットして、最小限の規模で再開しました。いままでは予約枠と当日枠を差別化していましたが、完全予約制に変更。完全予約制にすれば人数制限のアピールは特に必要ないと思います。また、安全面を考えても仮に感染が出てしまっても完全予約制にすれば感染経路を辿ることができます」

7月の人形供養祭は予約制で1家族1名参加を条件として、人形の受付は事前の1週間のみとし、人形供養祭当日は行わずに開催。毎年評判のお盆学習会も予約制で1家族1名参加を条件として人数制限

をしたので、HPでの動画配信を実施した。

いまの状況を当たり前にしない

「イベントに関してもですが、やらないことが当たり前になってしまうとよくないので、まずは開催することを重視しました。葬儀もリモートが当たり前になってしまうと従来の供養の価値を伝えられなくなってしまうと思います。付加価値としてのリモート機能はいいですが、葬儀としてのビジネスは成立しないと思います。弊社はリモート葬儀を取り入れてはいいませんが、やらざるを得ない状況になった時のために準備しておく必要はあると思っています。しかし、リモート葬儀を推奨はしたくない。こんな時だからこそ、宗教儀礼や、きちんと供養することが大事だと思います。日本はもともと仏教の国なので、困ったとき、どうしようもない時に多くの方は神様仏様に頼る心をもっていると思います。だからこそ、宗教者の方々にはリモート葬儀の推奨や、発信はしてほしくないです。もちろんビジネスとして考えるなら、新しいかたちは必要ですが、伝承されてきた日本の葬儀の文化は変わってほしくないのが本音です。せめても、宗教者の方々には通夜そして葬儀の大切さを含めて信念をもって伝えていただきたいと思っています」

【プロフィール】

松永元彦（まつなが・もとひこ）

- 1987年 有限会社久喜葬祭社 代表取締役に就任
- 2000年 有限会社マツナガ代表取締役に就任
- 2000年 葬祭事業協同組合埼玉こすもす初代理事長を歴任
- 2004年 社団法人久喜青年会議所理事長を歴任
- 1998年 『グラータス久喜』旧久喜葬祭会館を開設（久喜市）
- 2007年 『グラータストネ前』旧メモリアルハウスを開設（加須市）
- 2011年 『グラータス白蓮』旧セレモニーホール白蓮を開設（白岡市）
- 2017年 葬祭施設を『グラータス』とブランド化
- 2019年 家族葬・親族葬専用式場『グラータス 加須』を開設

